

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

CERESPO

NEWS

vol. 111 March 2019

セレスポ
セレスポ・ニュース
平成 31 年 3 月発行
第 111 号

第4回 全国ユース環境活動発表大会 (全国大会)

全国から選抜された 高校生が描く よりよい地域と世界、 実現するアイデア



セレスポ
Pick Up

伊奈学園中学校で
パラスポーツ体験会を開催しました!



第4回 全国ユース環境活動発表大会(全国大会)

持続可能な社会を作るため 16校が提案する“未来”



2月10日に、全国ユース環境活動発表大会 全国大会が国連大学ウ・タント国際会議場で開催されました。この大会は、持続可能な社会に向けて環境活動を行う高校生の相互交流や実践発表の場で、地方大会より選抜された16校がその取り組みを発表しました。今回は、大会事務局の独立行政法人環境再生保全機構の廣瀬大輔さんにお話を伺いました。

—全国ユース環境活動発表大会について教えてください。

廣瀬：第4回目となる今回は、2018年11月の地方大会からスタートしました。8地区での地方大会で選抜された16校が集まり、1日目は、選抜団体同士で、SDGs(持続可能な開発目標)に関するワークショップを行う環境フォーラム、2日目の全国大会で自然環境に対する取り組みを発表していただきました。

各団体の活動は、地域ごとに特色があり、みんな自分たちの地域や日本・世界を良くしていくために取り組んでいます。そんな同じ志をもつ者同士の活動や交流を通

じて、学びを共有するネットワーク形成と、知見を広めていただくことを目的に開催されています。

—大会開催にあたって、特に気をつけた部分はどこですか？

廣瀬：今回から、より多くの交流や発表の機会を創出するために、地方大会を開催しました。今までは書類選考のみで代表校を決定していましたが、地方大会を開催することで、応募数も昨年度の100校から152校に増加しました。全ての大会を同じクオリティで開催することが求められますので、全国で事業展開されているセレスポさんには、固定のチームで準備から本番までご対応いただき、突発的な出来事にも、イベントのプロとして私たちが最終的な判断をするための基となる対策やアドバイスをいただくなど、とても頼りにさ

せていただきました。また、どの大会にも多くの学生さんが集まるので、全参加団体へ事前に電話でルートや手段を確認するなど、出発から帰宅まで、安全で楽しい大会だったと思ってもらえるように交通面にも気を付けました。

—今後は、どのようなイベントとして開催していきたいですか？

廣瀬：個人的な意見ですが、環境活動を行っている同世代間だけでなく、世代を超



独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金部 地球環境基金課
廣瀬 大輔さん



環境大臣賞を受賞した長崎県立五島高等学校
環境部のみなさん

環境大臣賞受賞のコメント

長崎県立五島高等学校 五島環境部「島から世界を巻き込み!海から生み出すお宝大作戦!」
私たちは、海洋漂着ゴミで巨大アート作りを行い、被災地のための廃プラを用いた燃料作りを行っています。自分達の活動が評価されたことだけでなく、楽しみながら取り組んでいることが皆さんに伝えられて本当に嬉しいです。今後も継続して活動していきます。



EventData

- 第4回 全国ユース環境活動発表大会(全国大会)
- 2019年2月9日 環境フォーラム(研修会)
10日 活動発表・表彰式
- 国連大学(東京都渋谷区)
- 主催:全国ユース環境活動発表大会 実行委員会
(環境省・独立行政法人環境再生保全機構・国連大学サステイナビリティ高等研究所)

えたネットワークが広がるような人と人との繋がりを意識したイベントにしたいと思っています。例えば、今大会で授与された賞状には、第3回全国大会で環境大臣賞を受賞した岩手県立遠野緑峰高等学校の“ホップ和紙”が使用されました。このように、縦横に繋がりがつづけるネットワークとしても発展していきたいです。当然のことですが、イベントは始まりと終わりの時間が決まっています。限られた時間で、どれだけ良質なコミュニケーション

の機会を提供していくことができるかを模索し、環境問題に取り組んでいるみなさんにとっての新たな発見や気づきを得る場、そして、お互いの活動を知ることによってみんなで頑張っている問題に取り組んでいるのだと勇気づけられる場として、これからも活用してもらいたと思います。

インタビュー所感

全国大会の各団体の発表は「なるほど」と思うものだけでなく、今日から自分も取り組める身近なものなど、多岐に渡る内容でした。発表団体のみなさんは、今の地球環境の問題に真摯に向き合っているながらも、とても楽しそうに取り組んでいることが印象的。ネットワークの拡充で、より充実した活動が継続されることを願います。



REPORT 株式会社セレスポ 札幌支店 鹿間 孝之(しかま たかゆき)

繋がりも、仕事の枠も広がっていく。それがイベントの仕事の醍醐味。

本イベントでは、地方大会から全国大会まで事務局・広報業務を中心に当日の運営・進行などをお手伝いさせていただきました。1校でも多くの全国で活動している団体のみなさんにこの大会のことを知ってもらいたいという主催者さまの願いもあり、ラジオやスマートフォンのバナー周知を始めとした広報のご提案や、環境活動を行っている約3,000の学校に電話ヒヤリング等を行い、知ってもらうだけでなく主催者さまと繋がりを増やすなど大会の認知度の訴求

に注力し、主催の3団体さまとの窓口として日本各地で開催される大会の成功にご協力できたことがとても嬉しいです。

仕事では、人との繋がりを大切にすることを意識しています。当日のワークショップや大会で生徒・先生・主催者同士の繋がりが広がっていく光景を見た時に、改めてイベントの仕事の醍醐味を感じました。

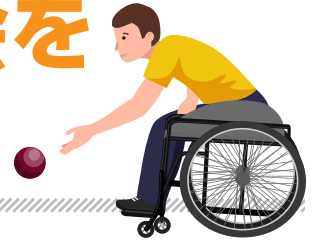
現在も、いろいろな団体・企業さまにおける販路開拓や営業推進のお手伝いをさせていただ



いており、お客さまから「セレスポはこんなことまでできるんだ!」と言っていたら、現在の仕事の枠が広がりを見せた時がこの仕事に携わっていて良かったと感じる瞬間。この大会でも大切にされていた「繋がり」を意識しながら、これからもイベントのお手伝いをさせていただきます。

セレスポ
Pick Up

伊奈学園中学校で パラスポーツ体験会を 開催しました!



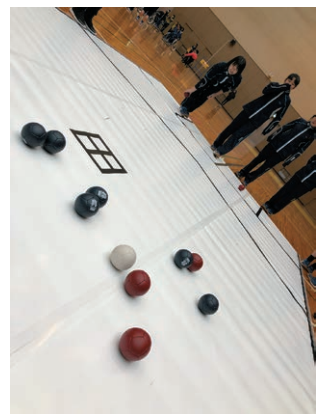
2019年2月14日に、埼玉県立伊奈学園中学校にてパラスポーツ体験会を開催しました。この体験会は、パラリンピックへの関心を高めながら、心のバリアフリーに繋げるため、総合の授業の一環として開催。パラアスリートの上原 大祐氏によるトークショーと、ボッチャ、シッティングバレー、ボール競技用レーザー、車いすバスケットボールを実際に体験していただき、楽しみながら競技のことを身近に感じていただけたのではないかと思います。



みんな「同じ」で、みんな「仲間」だということを改めて感じました。



私たちが障がい者との壁をなくすことが大事だと思いました。



NEW

2019年4月から、セレスポ陸上部に新選手が入部します。今シーズンも、選手3名で頑張ってまいりますので、応援よろしくお祈りします!

白石 黄良々

出身地 : 鹿児島県

自己ベスト : 10"36 (100m) / 20"98 (200m)

今年も、セレスポ陸上部 Activity Report [2018-2019] を発行します。送付をご希望の方は、コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで、発送先を連絡ください。



発行 発行日：平成31年3月25日

発行元 株式会社セレスポ (CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 (本社)
TEL : 03(5974)1111 FAX : 03(5394)7651
<http://www.cerespo.co.jp/>

編集 山川 譲 (yawn)
記事 コーポレートデザイン室
デザイン 山本制作所
CERESPO NEWSに関するお問い合わせは
株式会社セレスポ コーポレートデザイン室(cd@cerespo.co.jp)まで

編集後記

今回特集した全国ユース環境大会で、高校生たちの自然環境に関する取り組み内容に深く関心させられつつも、それ以上に1人1人のとても楽しそうに自分たちの取り組み内容を話している姿がとても印象的でした。ワークショップでは、自分と同様に環境問題に取り組む多くの仲間と語りあい、新しい考え方や取り組みに出会えたような表情が会場のいたる所で見られ、主催者さまが重視していた人と人との交流の醍醐味が伝わってきました。自分が楽しみながら物事に取り組むことは、成果に繋がりがやすいと言われており、その楽しさは周囲にも波及し、さらなる連鎖に繋がるようです。少しずつですが、SDGsという単語を耳にするようになった今日この頃。自分のできることから少しずつ始めていこうと感じました。